

レジメンスケジュール

診療科	消化器外科
適応	進行再発・術後補助大腸癌
レジメン	大腸CapeOX(130)療法

申請・改訂日	2014年9月
備考	

クール関連	
-------	--

使用した臨床データ	
がん化学療法レジメンハンドブック	

全クール																						
投与順	抗がん剤	薬品名	投与量	投与方法	時間・速度	備考	day1	day21			
①		デキサメタゾン注	9.9mg	メイン	15分		○															
①		パロノセトロン注	0.75mg																			
①		生理食塩液	50mL																			
②	○	オキサリプラチン 5%ブドウ糖液	130mg/m2 250mL	メイン	120分		○															
③		生理食塩液	50mL	メイン	全開		○															
④	○	カペシタビン	2000mg/m2/day	内服	1日2回朝夕		day1-14後休業(2投1休)															
			C法(1000mg/m2/回) 体表面積1.96m2以上:4200mg/day 体表面積1.66~1.96m2:3600mg/day 体表面積1.36~1.66m2:3000mg/day 体表面積1.36未満:2400mg/day																			

終了

投与量	オキサリプラチン	カペシタビン
通常量	130mg/m2	2000mg/m2/day
1段階減量	100mg/m2	1500mg/m2/day
2段階減量	85mg/m2	1000mg/m2/day

Ccr(mL/min)	カペシタビン
50以上	減量なし
30-50	1段階減量
30未満	投与中止

カペシタビン(C法)			
体表面積	1回用量		
	初回投与量	減量段階1	減量段階2
1.36 m ² 未満	1,200 mg (4錠)	900 mg (3錠)	600 mg (2錠)
1.36 m ² 以上1.41 m ² 未満	1,500 mg (5錠)		
1.41 m ² 以上1.51 m ² 未満		1,200 mg (4錠)	
1.51 m ² 以上1.66 m ² 未満			900 mg (3錠)
1.66 m ² 以上1.81 m ² 未満	1,800 mg (6錠)		
1.81 m ² 以上1.96 m ² 未満		1,500 mg (5錠)	
1.96 m ² 以上2.11 m ² 未満	2,100 mg (7錠)		1,200 mg (4錠)
2.11 m ² 以上			

減量・中止基準

カペシタビンとオキサリプラチン

副作用	程度		カペシタビン	オキサリプラチン
	Grade	発現回数	カペシタビン	オキサリプラチン
血液毒性	G3	1	休薬、G1以下に回復後1段階減量	G1以下に回復後100mg/m2
		2	休薬、G1以下に回復後1段階減量	G1以下に回復後85mg/m2
		1	休薬、G1以下に回復後2段階減量か中止	休薬、G1以下に回復後85mg/m2か中止
非血液毒性	G2	1	変更なし	変更なし
		2	休薬、G1以下に回復後1段階減量	変更なし
		3	休薬、G1以下に回復後2段階減量	変更なし
	G3	1	休薬、G1以下に回復後1段階減量	G1以下に回復後100mg/m2
		2	休薬、G1以下に回復後2段階減量	G1以下に回復後85mg/m2
		1	休薬、G1以下に回復後2段階減量か中止	休薬、G1以下に回復後85mg/m2か中止

オキサリプラチン

副作用	程度		オキサリプラチン
	Grade	持続期間	オキサリプラチン
末梢神経障害	G2	当該サイクル内に消失しない場合	1段階減量
	G3	7日以内に消失	-
	G3	8日以上	1段階減量
	G3	当該サイクル内に消失しない場合	オキサリプラチン休薬、カペシタビンのみ継続、回復後100mg/m2で再開可能
	G4	-	投与中止
投与中の急性咽頭異常感覚	オキサリプラチンの投与時間を2時間→6時間へ変更する		

2コース目以降の投与開始基準

カペシタビンとオキサリプラチン

好中球数1500/mm3以上並びに血小板数75000/mm3が満たされない場合は回復するまで休薬する。